

Y I A 会員だより 2022年8月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第212号 ホームページ URL <https://yia2020.net/>



【8月の活動予定他】

- 8月21日(日)午後「ぶどう狩り」山川ブドウ園
13:00に山川町のキョーエーに集合 ¥500
- 8月27日(土)18:30～ 新ALT歓迎会
セントラルホテル鴨島 ¥4,000 ALT¥2,000
- 8月28日(日) 午後 阿波踊り「国際交流連」
まちかどコンサート開催時に踊り参加
集合場所：文化研修センター
集合時間：13:00 参加費無料

◆日本語スピーチ・コンテストを開催 萩森 健治

第2回「日本語スピーチ・コンテスト」を山川公民館で7月17日に開催。今回は阿波日本語支援教室の協力を得て実施し、市生涯学習課、日本語教室の受講生と講師、発表者の関係者など42名が参加しました。

まず、会長の萩森がスピーチ・コンテスト開催の趣旨と日本語教室の紹介。続いて、7名の発表者が各自6分間のスピーチを行いました。

| 発表者氏名 所属 | 国籍 | 発表タイトル |
|---------------------------|--------|---------------------------|
| チャンティ トゥエト・チン 縫製会社 | ベトナム | 日本の田舎生活を楽しみながら、日本語を学ぶ |
| トムルホヤグ オトゴントヤ 介護施設 | モンゴル | 介護施設で働きながら、将来の進路を見つける |
| 張 培芳 食品会社 | 中国 | おかげさまで日本語が上達し、生きる目標もできました |
| アフマド ファジュリ 食品会社 | インドネシア | インドネシアの家は、島ごとに民族ごとに違います |
| フラディナ プトリ (ナナ) 食品会社 | インドネシア | 私の出身地の文化を紹介します |
| インタン プリアンデラ 食品会社 | インドネシア | インドネシアのハラルについて知ってほしいこと |
| ムハマッド ユスフ 機械部品製造会社 | インドネシア | 料理が大好きです |

審査員長は、大阪経済法科大学の梶村美紀先生にお願いしました。先生は徳島出身で、大学での講義のほか技能実習生や外国人支援についても調査研究されています。審査員は、日本語講師の高田栄治さ



ん、真鍋憲昭さん、阿波日本語支援教室の藤本功男さん（阿波市議員）が担当しました。

チンさんは、もっと日本語を勉強して、多くの日本人と楽しく話がしたい、日本のいろんなところにも行きたいとスライドを用いて発表。オトゴーさんは、当日は仕事があったため、動画により介護施設での経験を生かして将来は母国で薬剤師として働きたいと発表。張さんは、日本語を学び、会社の人たちのおかげで心が強

くなりチャレンジする目標もできたと発表。ファジュリ君は、インドネシアの島ごとに異なるいろいろな家をスライドで紹介。ナナさんは、自分が属する民族が母系社会であることをスライドで紹介。インタンさんは、イスラム教のハラルについて日本で困ったこと、知ってほしいことを発表。ユスフ君は、子どもの時に母親がいなくなり、料理や家事を手伝うようになって料理が好きになったことを発表。

また、インタンさん、ナナさん、エラさんはインドネシアの踊りを披露。地方の生活や宗教行事などを表したような楽しそうなすばらしいダンスでした。休憩後、審査員の真鍋さん、高田さん、藤本さんからそれぞれの発表者について講評がありました。



最後に、梶村審査員長からは、「皆さん、技能実習生として毎日働きながら、素晴らしいスピーチをしました。実習先の企業とも良い関係が作られている感じが感じられます」との総括講評をいただきました。表彰式では、全員に優秀賞の賞状とささやかな賞金が授与されました。なお、張さん、インタンさん、ユスフ君は、7月24日に開催された徳島県日本語弁論大会に出場しました。

◆徳島県日本語弁論大会に2名が出場 三原敦子

7月24日、『外国人による徳島県日本語弁論大会』が開かれ、山川教室の張さん、インタンさんがスピーチ

をしました。

張さんは、日本語の上達とともに自分自身が変わっていったこと、そしてその上達には周りの多くの人たちの支えがあったことを切々と語りました。最後にこの発表は自分を変えるため、そして社長さんを含め支えてくれた人たちへの感謝の意を伝えたかったからと話してくれました。聞いていて本当に涙が出そうになりました。

次に、インタンさんはイスラム教徒が食べること

ができるハラル食品についてスピーチをしました。日本語がわからないときは、スーパーでハラル食品を探すために長い時間がかかったこと。そのため店員さんから疑われたりして、悲しかった出来事を話しました。それでも一生懸命日本語を覚えてハラル食品を早く探せるようになったことなどを生き生きと明るく話しました。そして異なる文化や習慣を理解するためには、互いに分からないことや知らないことに対して、相手に聞くと同時に自分の思いを相手に伝える、それを繰り返すことが一番大切なのではないでしょうかという言葉で締めくくりました。

余興では、インタンさん、エマさん、ナナさんが客を歓迎するインドネシアの踊りを披露し、会場を沸かせました。

結果は張さんが特別賞、インタンさんが優秀賞を受



賞しました。

私も何度か応援者として参加しましたが、今年は特に内容、日本語能力とも全体にレベルが高かったように思います。その中で実習生である二人の受賞は素晴らしいと思いました。最後になりましたが当日も朝早くから送迎を担ってくれ、見守ってくれたた社長さんご夫婦に感謝いたします。

◆吉野川市国際交流協会30年の歩み・パネル展 瀬尾規子

吉野川市国際交流協会は、2004年10月の麻植郡の市町村合併に伴い、1992年8月に設立した鴨島町国際交流協会の組織を引き継ぎ、地域を吉野川市に拡大して設立されました。

2022年8月で、設立30周年を迎えることから、「吉野川市国際交流協会30年の歩み・パネル展」を7月28日から8月3日まで、吉野川市文化研修センターのロビーで開催しました。

2004年に「多文化共生フェスティバル」で展示したパネルや日本語教室や阿波踊り、国際理解講座、講演会など活動を紹介する写真のほか、機関誌（第1号～第18号）や鴨島町国際交流協会時代の懐かしい写真も展示しました。

会場では、1995年に発行した「ふるさと国際倶楽部」、2004年に発行した「ながれ」、機関誌、最新版のYIAのリーフレットを配布しました。また、日本語講師の村上瑛一さんが日本語教室20年の歩みを記録した書籍「日本語教室の窓から世界が見える」（吉野川市国際交流協会・日本語教室の現場から）も展示し、電子書籍の紹介をしました。

国際交流協会は、市民が主体となった市の国際化のために、様々な事業を行ってきました。特に、在住外国人のための日本語教室は30年の歴史があり、県内でも屈指の歴史と活動を誇っています。初日の28日には、徳島新聞社吉野川支局の石津記者が取材に訪れました。

このたびの企画展は、吉野川市民のみならず、県民にも吉野川市国際交流協会の活動を知っていただく、よい機会となりました。この流れで、12月には30周年

記念事業を開催する予定です。30年の歴史から、さらなる未来へと歴史を繋げていきたいと思えます。



受付の安部さんと日本語講師の村上さん（右）



パネル展のようす
文化協会の講座生の皆さんも見学してくれました。



パネル展については、徳島新聞（7/30）にも掲載されました。

YIA 定例活動 他 ◆日本語教室：日本語で教えています。講師募集中！

【鴨島教室】 毎週日曜日 13：30～15：30 【山川教室】 毎週日曜日 10：00～11：30

お問い合わせ先：萩森健治 ☎0883-24-8653